



嬭恋村 グランドデザイン計画

令和8年9月 群馬県嬭恋村

目次

1 章	はじめに	
01	背景	...01
02	グランドデザインの狙い	...02
03	グランドデザインの位置づけと目標年次	...02
2 章	村の特性と課題	
01	現況特性	...04
02	上位計画・関連計画での位置づけ	...12
03	村に対するニーズ	...14
04	課題の整理	...19
3 章	おおむね20年後の村の姿	
01	将来土地利用構想図	...21
02	将来ビジョンを実現するための目標	...24
4 章	リーディングプロジェクト	
	リーディングプロジェクト一覧	...26
01	シビックセンター構想	...27
02	道の駅構想	...27
03	鎌原観音堂周辺整備構想	...28
04	浅間山ジオパーク構想	...28
05	次世代農業基盤整備構想	...29
	リーディングプロジェクトを支える取り組み	...29
5 章	グランドデザインの実現体制とロードマップ	
01	実現体制のあり方	...31
02	リーディングプロジェクトの実現に向けたロードマップ	...32
	おわりに	...33

1 章

はじめに

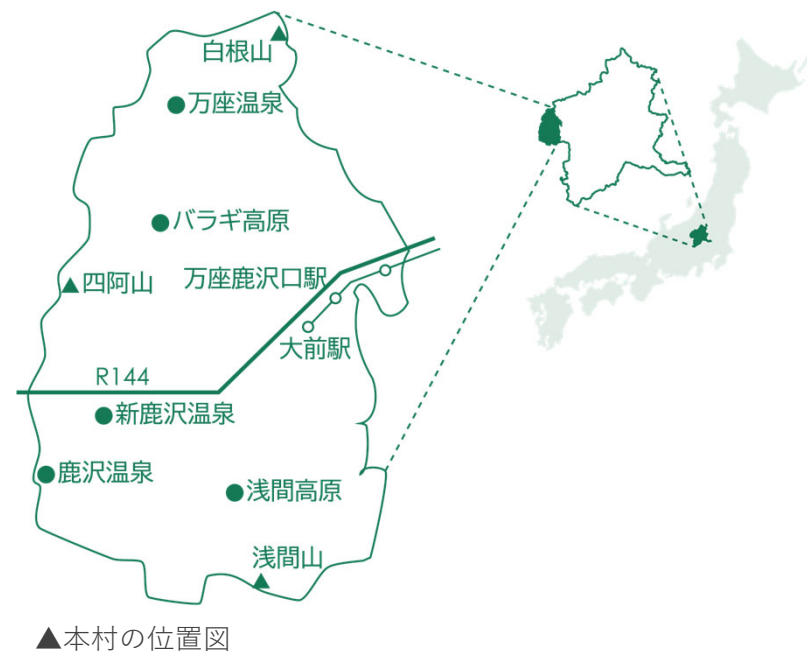
01 背景

「孀恋村」の村名は日本武尊の伝説に由来し、明治22年の町村制施行に伴い誕生しました。本村は群馬県北西部に位置する、標高2,000m級の山々に囲まれた冷涼な高原地域であり、避暑や作物の生育等に最適な気候となっています。豊富な温泉資源や別荘地を有する観光リゾート地を形成する一方、夏秋キャベツの生産量日本一を誇る一大農業地帯でもあります。

現在、本村を經由する高規格道路「上信自動車道」の整備が進められています。これにより、災害に強い道路ネットワークが構築され、キャベツの即日販売圏域の拡大をはじめとする物流の効率化や、周辺観光地へのアクセス向上による観光振興が期待されています。

一方で、本村を取り巻く環境も大きく変化しました。コロナ禍を経たライフスタイルの多様化や技術革新が進むなか、人口減少・少子高齢化、公共施設の老朽化、財政制約の深刻化といった課題に直面しており、公共サービスと村民ニーズのミスマッチや、まちづくりに係る財政負担の増加・制約等も生じています。

こうした時代情勢の変化を見据え、本村として一層伸ばしていきたい基幹産業（農業）と、整備されてから長年が経過し老朽化する公共施設の維持・更新、及び観光を促進する拠点整備等のあり方について、近隣自治体とも協働した広域的な連携も見据えた、長期的な将来像を描く必要があります。



▲本村の位置図



▲浅間山の麓に広がる、本村が誇るべきキャベツの畑

02 グランドデザインの狙い

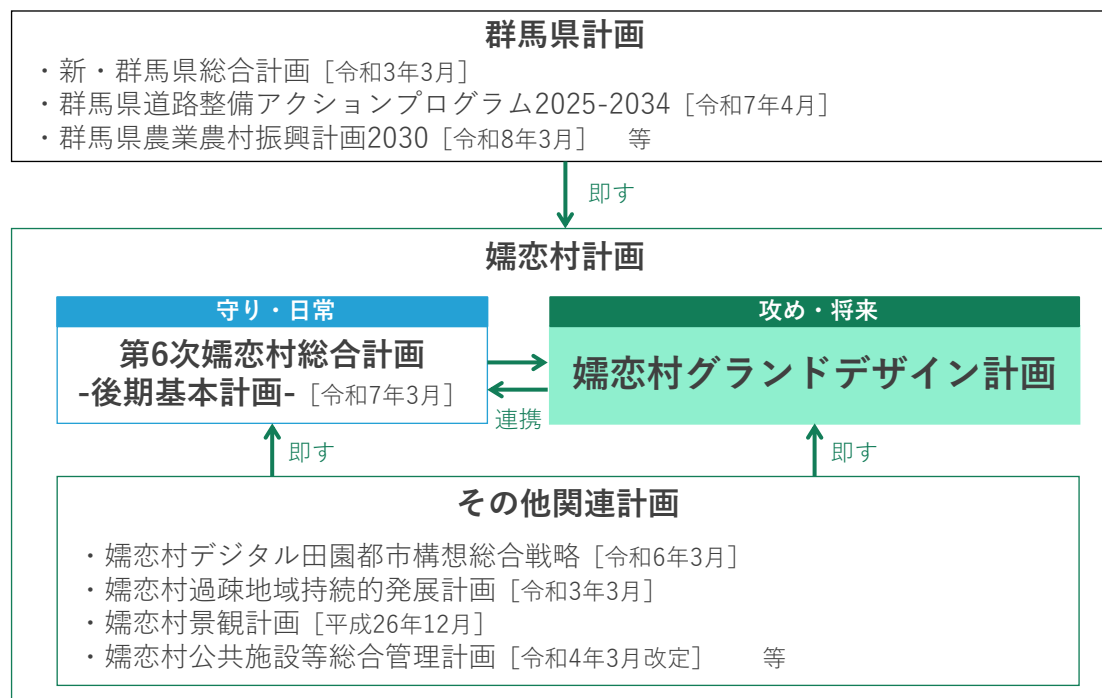
『嬭恋村グランドデザイン計画（以下「本計画」と呼称）』は、『第6次嬭恋村総合計画』との役割分担を意識しながら、本村の将来あるべき姿を描くものとして策定します。

具体的には、本村の総合的な施策（例：健康・福祉・子育て、教育・スポーツ・文化など“守り・日常”の要素）は総合計画での推進に委ね、本計画では、特に「村民の暮らしの充実」「村をつなぎ守るインフラ整備の促進」「村への来訪機会の増加に向けた観光促進」といった“攻め・将来”の要素に着眼するものとします。

03 グランドデザインの位置づけと目標年次

本計画は、群馬県の計画での位置づけ内容にも配慮しながら、本村の上位計画・関連計画での位置づけも踏まえたものとします。前項で示したように、『第6次嬭恋村総合計画』との役割分担を意識しながら、村の将来目指すべき姿を示します。

また、本計画は「おおむね20年後」の村の姿を描くものとして位置づけます。



▲グランドデザイン計画と他計画との関係性



孀恋の丘（カラマツの丘）

孀恋の丘は、夏に訪れると一面のキャベツ畑が広がり、冬に訪れると雪景色とカラマツ林のコントラストが美しく、雄大な自然を体感できるビュースポットです。また、天体写真の撮影スポットとしても有名です。

2 章

村の特性と課題

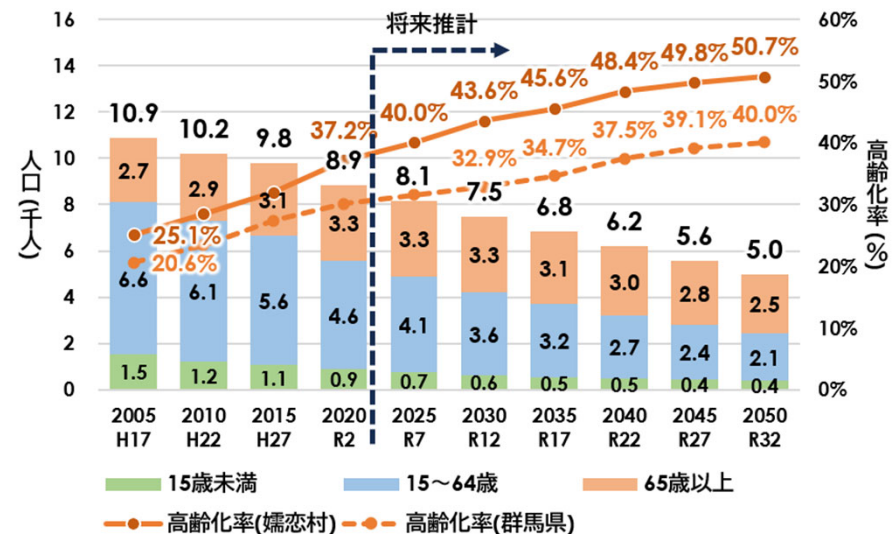
01 現況特性

(1) 人口推移

本村の人口は、令和2（2020）年には8,850人であり、平成17（2005）年から15年間で約19%も減少しました。

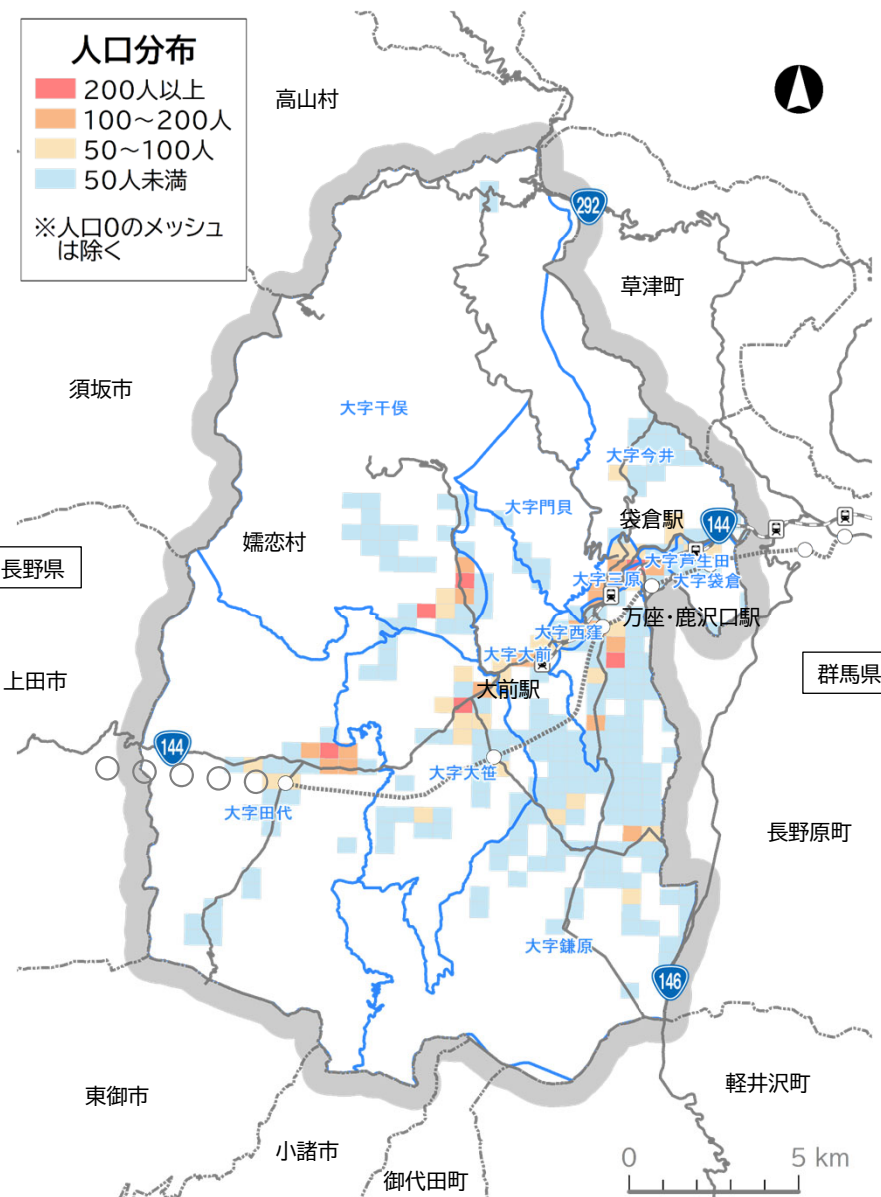
将来の人口推計結果によると、今後も人口減少は続く見込みであり、令和32（2050）年には約5,000人にまで減少し、高齢化率は50.7%と群馬県平均を上回るペースで上昇する見込みです。つまり、人口の半数が65歳以上の高齢者となる社会の到来が迫っています。

また、本村の人口分布は国道144号等の幹線道路沿いに高密度に分布しており、南東部の鎌原地区の別荘地にも低密度に分布しています。



▲年齢3区分別人口及び高齢化率の推移

（出典：国勢調査（平成17年-令和2年），令和7年以降の将来推計値は国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』※令和5年推計結果）



▲人口分布状況（出典：国勢調査（令和2年，500mメッシュ人口））

(2) 産業特性

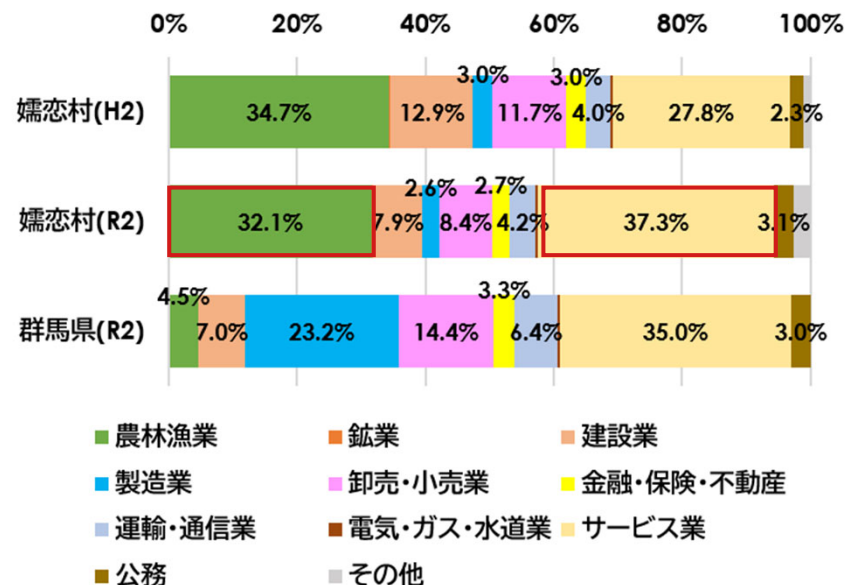
① 産業別就業人口

令和2（2020）年における本村の産業別人口構成は、サービス業や農林漁業の割合が高く、平成2（1990）年に比べてサービス業の割合が増加し、県平均と比較しても農業漁業やサービス業の割合が高くなっています。

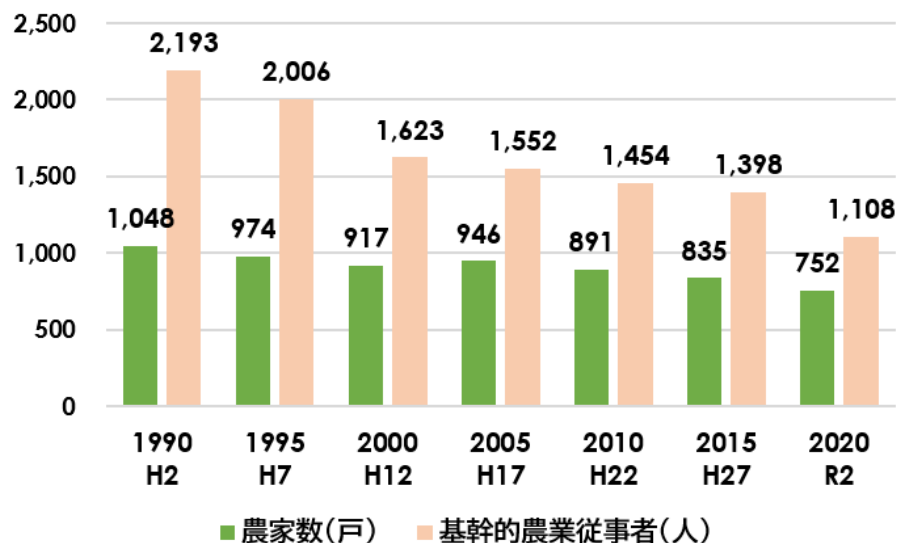
② 農業

本村の令和2(2020)年の農家数は約750戸、農業従業者数は約1,100人で、人口減少に伴い減少傾向となっています。

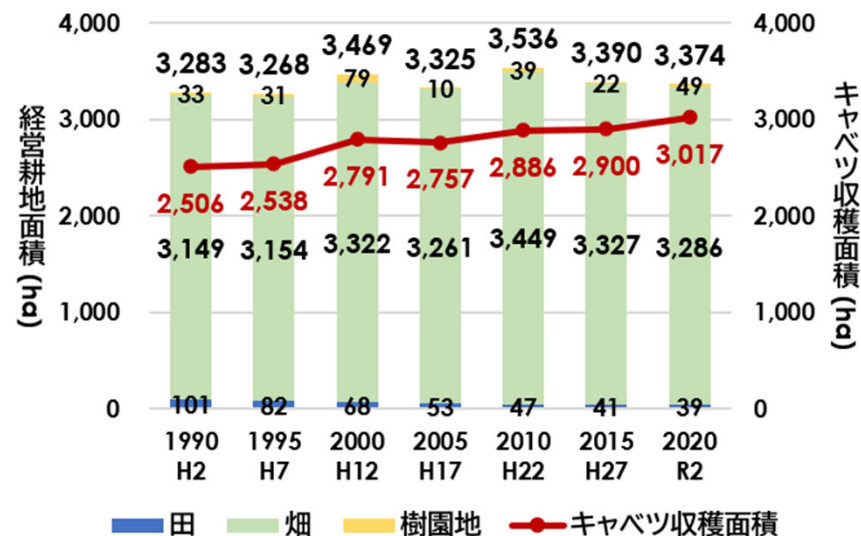
一方で耕地面積は3,500ha 前後で維持されており、畑がほとんどを占め、特に本村を代表する主な農産品であるキャベツの面積は増加しています。本村の夏秋キャベツは、令和5年の出荷量が20万トンで全国第1位・全国シェア約60%を誇っています。



▲就業人口の産業別割合（出典：嬬恋村統計書（令和6年），国勢調査（平成2年・令和2年））



▲農家数と農業従事者の推移（出典：嬬恋村統計書（令和6年））



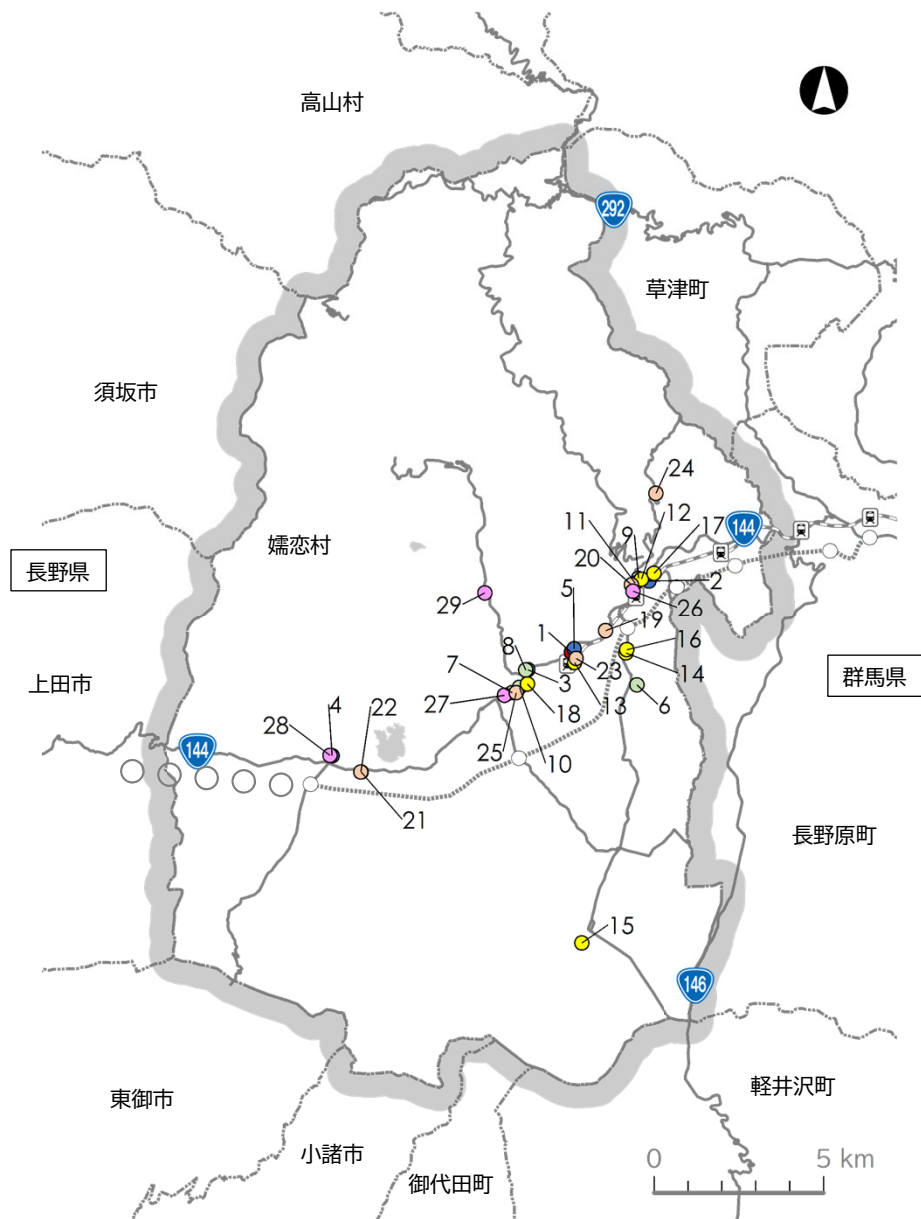
▲経営耕地面積の推移（出典：嬬恋村統計書（令和6年））

(3) 都市機能の状況

本村の主な公共施設として、役場や警察・消防のほか、学校、教育文化施設、医療福祉施設、郵便局などがあり、郵便局や文化施設の一部を除いて多くの公共公益施設が国道144号沿いに分布しています。

▼本村の公共公益施設等

分類	番号	施設名
役場支所	1	嬬恋村役場
警察消防	2	長野原警察署嬬恋交番
	3	長野原警察署大前駐在所
	4	長野原警察署田代駐在所
	5	吾妻広域消防本部西部消防署嬬恋分署
学校	6	村立東部こども園
	7	村立西部幼稚園
	8	村立西部小学校
	9	村立東部小学校
	10	村立嬬恋中学校
	11	県立嬬恋高等学校
教育文化	12	サーラ嬬恋(嬬恋会館)
	13	嬬恋村農村環境改善センター
	14	嬬恋郷土資料館
	15	浅間火山博物館
	16	地域交流センター
	17	嬬恋村総合グラウンド
	18	嬬恋村運動公園
医療福祉	19	桜井クリニック
	20	嬬恋村国民健康保険診療所
	21	ケアハウスつつじ苑
	22	特別養護老人ホームひだまりの森白樺荘
	23	嬬恋村社会福祉協議会
	24	つまごい笑みの里暖輪
	25	グループホームつまごい大笹宿
郵便局	26	三原郵便局
	27	大笹郵便局
	28	田代郵便局
	29	千俣簡易郵便局



▲公共施設等の分布状況（出典：本村ホームページ，国土数値情報）

① 道路ネットワーク

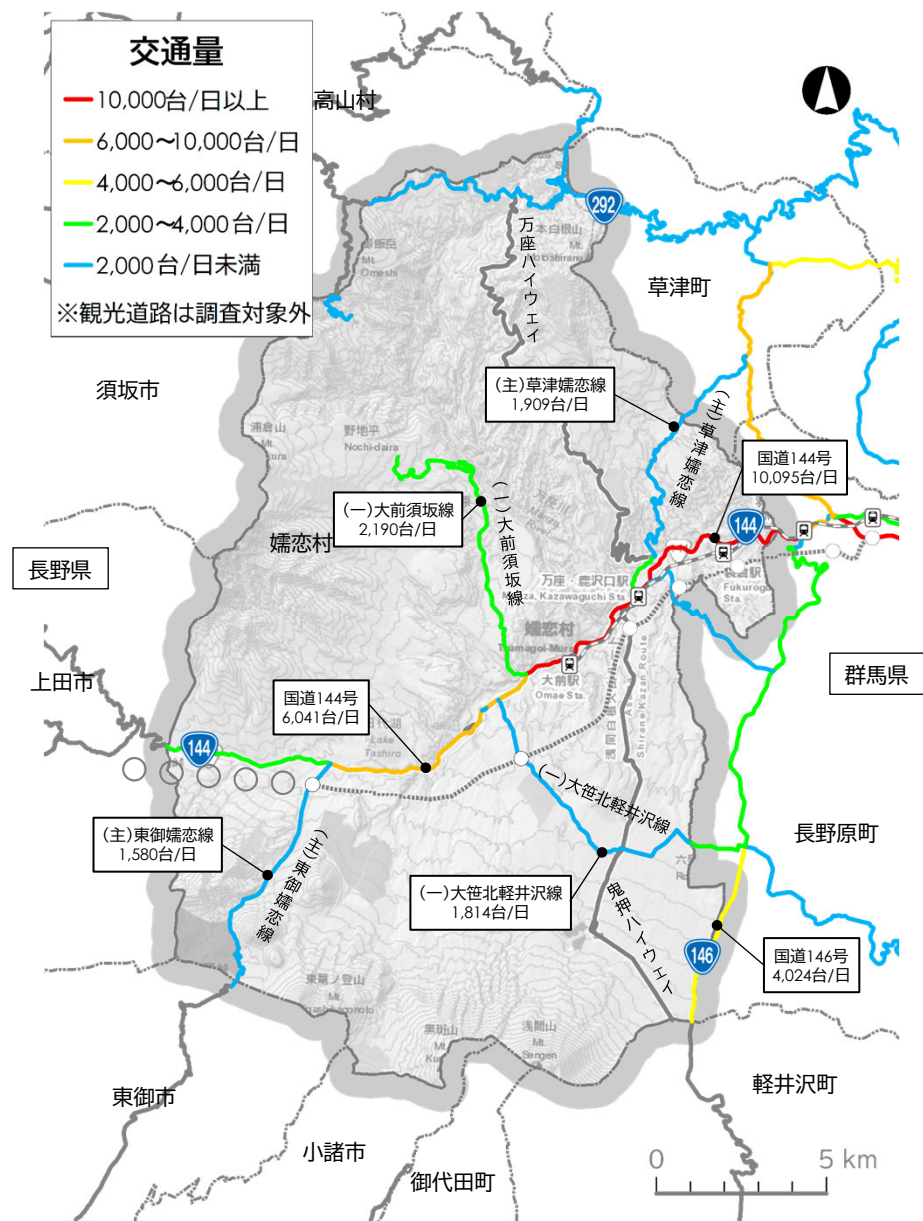
国道144号の南側を並走するように上信自動車道 長野原嬭恋バイパス・嬭恋バイパスの整備が進行中であり、将来的に広域アクセスが向上し、物流効率化や観光交流の拡大が期待されます。



(4) 交通状況

② 沿線交通量

村内の東西の幹線道路である国道144号の交通量は、県境域を除き約6,000～10,000台/日、南北の(主)草津嬬恋線や(主)東御嬬恋線、(一)大笹北軽井沢線、(一)大前須坂線は2,000台/日程度となっています。



▲周辺交通量の状況（出典：令和3年度一般交通量調査結果WEBマップ（可視化ツール））

※(主)：主要地方道、(一)：一般県道 を指す

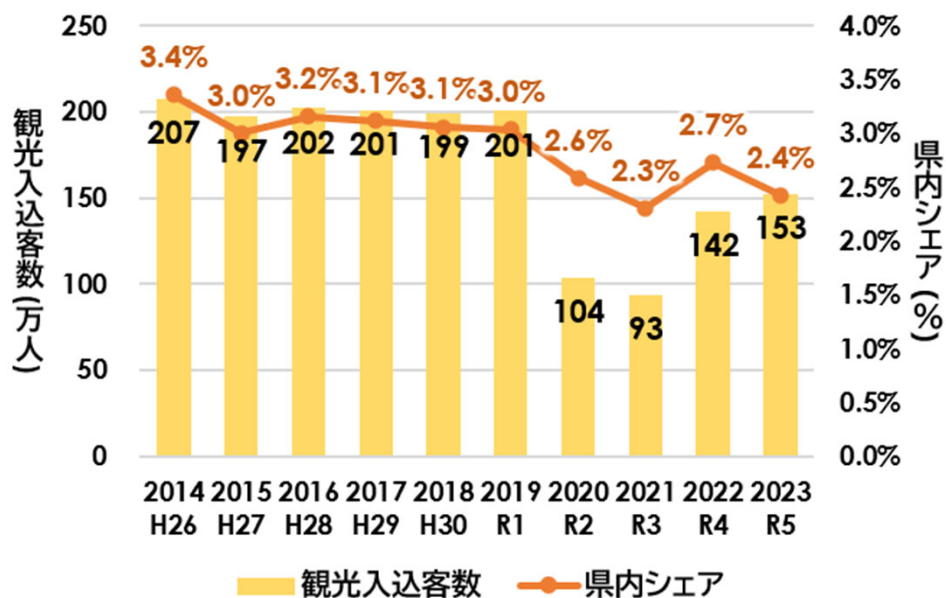
(5) 観光状況

① 主な周辺観光地(地域資源等の状況)

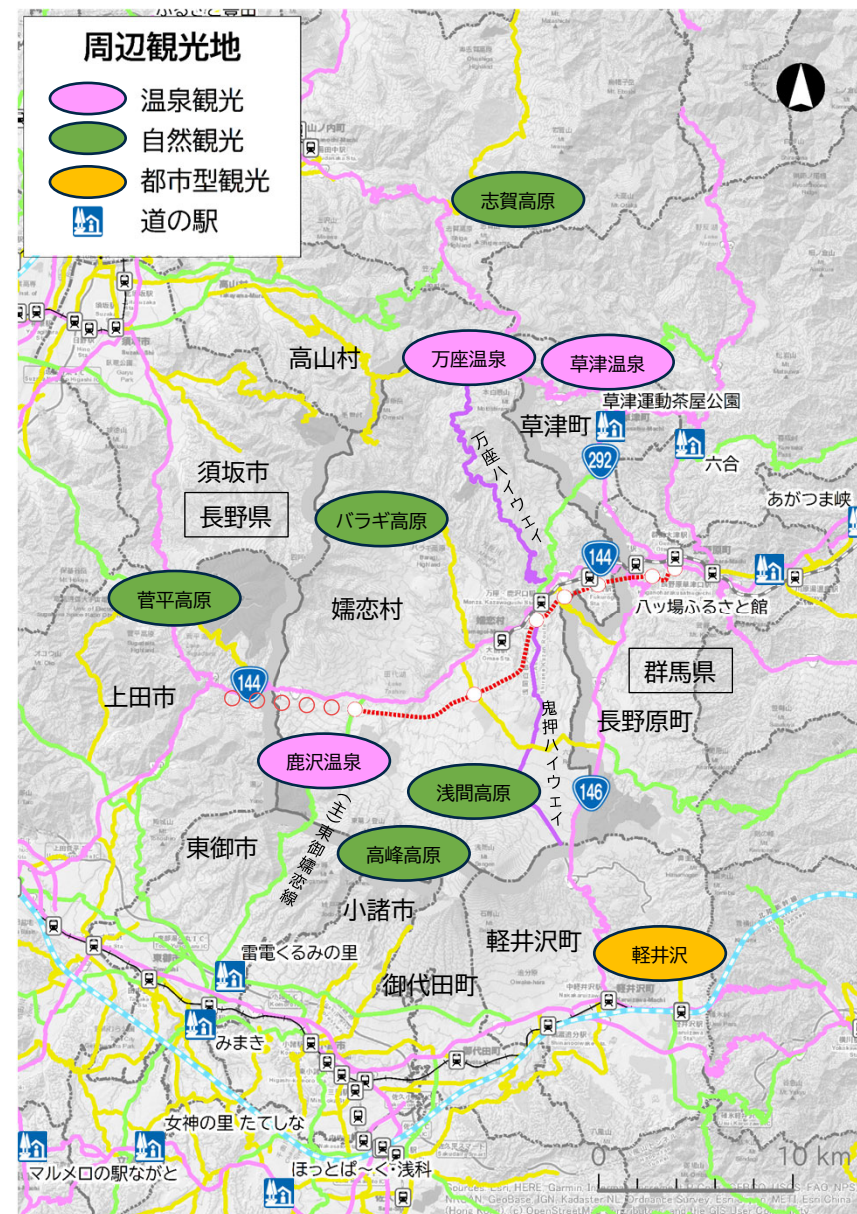
万座温泉や鹿沢温泉、浅間高原や高峰高原、バラギ高原などがあり、各エリアで温泉保養やスキーリゾート、ゴルフ、キャンプ等の各種アクティビティが揃い、火山や高地という地理的特性を活かした魅力的な観光資源があります。広域的にも、軽井沢、草津温泉、志賀高原など全国的に著名な観光地があります。

② 観光入込客数

令和5（2023）年には約153万人で群馬県内シェアでは2.4%となっています。コロナ禍前までは200万人程度で推移していましたが、その7割程度の回復にとどまっています。



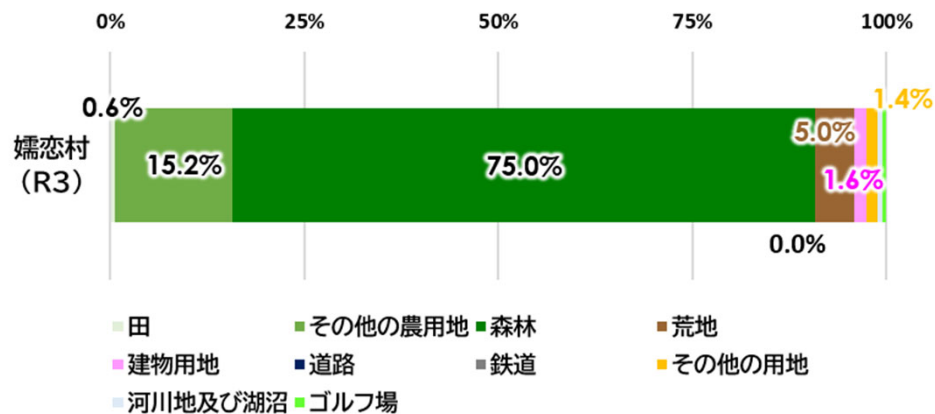
▲観光入込客数の推移
(出典：群馬県観光客数・消費額調査（推計）結果)



▲周辺観光地の状況（出典：本村ホームページ、国土数値情報、地理院地図）

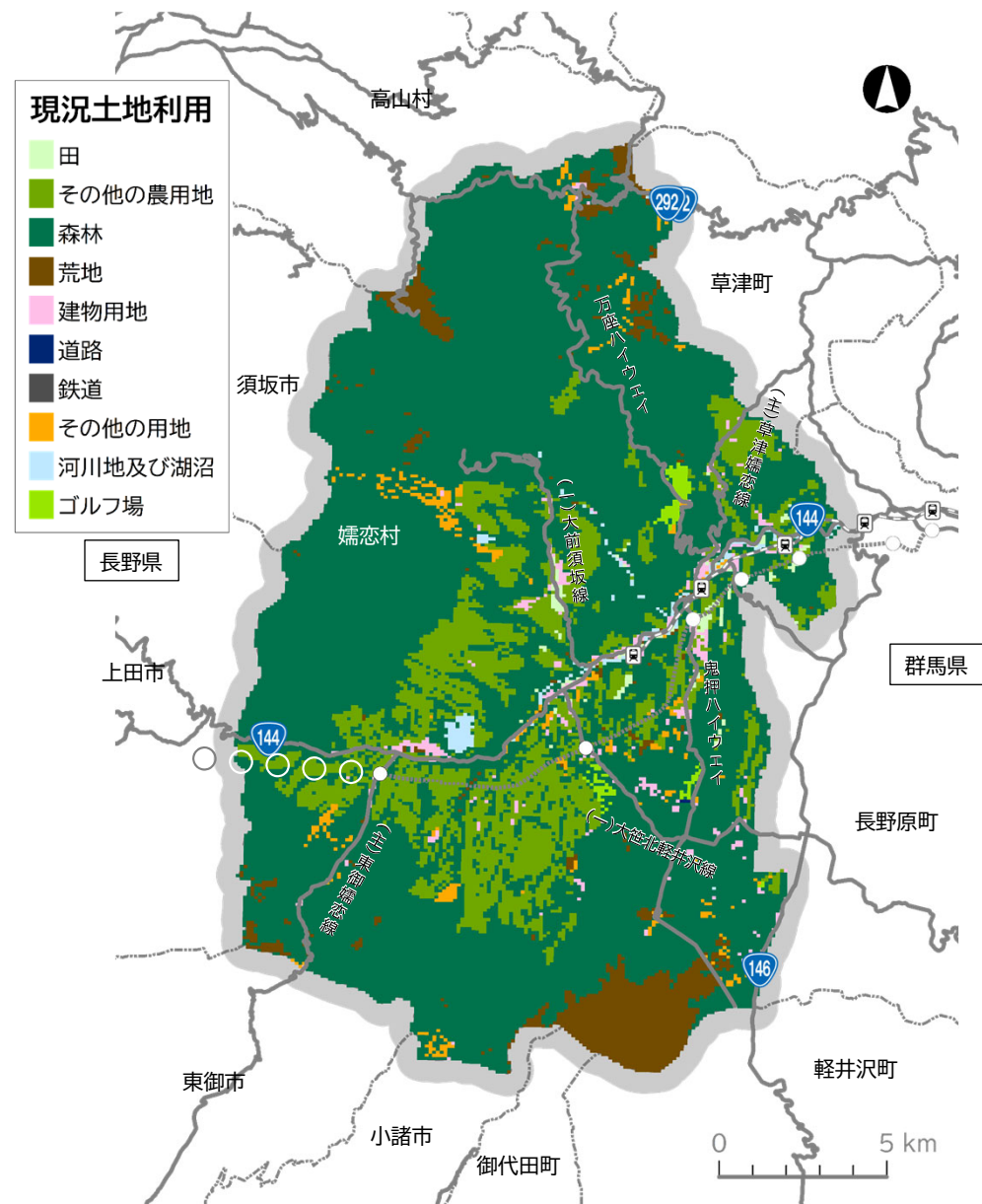
(6) 現況土地利用

本村の現況土地利用は、森林が75%を占めており、農用地が約15%、荒地が5%、建物用地は1.6%程度の状況です。建物用地は国道144号沿いや鬼押ハイウェイ沿いに分布している状況です。



▲対象地域の土地利用メッシュの割合

(出典：国土数値情報（令和3年土地利用細分メッシュ）)



▲現況土地利用の状況（出典：国土数値情報（令和3年土地利用細分メッシュ））

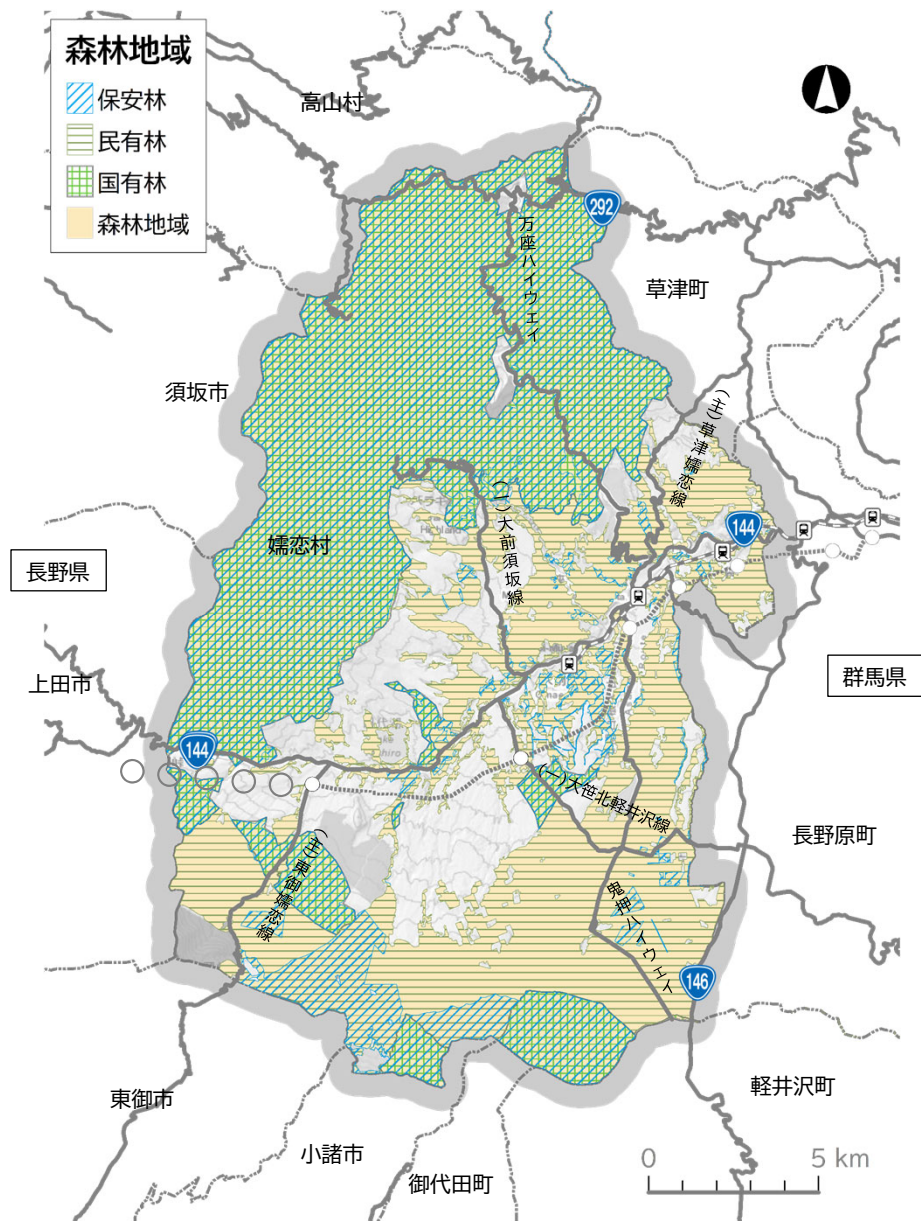
(7) 周辺の土地環境及び法規制の状況

本村は上信越高原国立公園（草津・万座・浅間地域）に指定された地域が存在し、貴重で豊かな自然環境に恵まれ、地域の経済活動や観光交流の基盤となっています。

国立公園の指定理由としては、“本公園は「山と高原が彩るレクリエーションワールド」をテーマとして、成層火山や火山性高原等の火山活動による様々な地形からなる風致景観を保全し、これらの風致景観を活かした多種多様な利用を適切に推進”すると位置づけられています。

こうした自然環境資源の利用面として、「多くの温泉地が存在していることもこの地区の特色であり、首都圏からのアプローチが良いことなどから、冬季は万座、鹿沢などの著名なスキー場は利用者でにぎわい、雪のない時期には万座高原、浅間高原などを中心とするハイキング等の利用がある」とされています。

国立公園に位置づけられていることもあり、森林地域は約25,500 ha（村域の75%）となっており、上信道計画ルート沿線は民有林が多いものの、一部に国有林や保安林が広がる状況です。



▲本村における森林地域の指定状況

(出典：国土数値情報（森林地域：平成27年），地理院地図)

02 上位計画・関連計画での位置づけ

(1) 第6次嬭恋村総合計画-後期基本計画-(令和7年3月)

将来像として「高原に抱かれた美しい希望の里 嬭恋村」を掲げ、計画期間は2025年度から2029年度までとなっています。

主な施策や取り組みに関わる位置づけとして、以下の内容があります。

- 6次産業化やブランド化を推進し、農林産物の高付加価値化と市場競争力の強化
- 本村の自然環境や歴史・文化資源を活用し観光ブランド力を高め、草津町や軽井沢町との連携で広域観光ルートを形成し着地型観光を推進
- 上信自動車道の整備も考慮しながら、観光環境の整備を含むハード事業の推進
- 地域住民や、観光等の来訪者の移動ニーズに応えるための公共交通サービスの検討・推進
- 地域特性を生かした適切な土地利用計画の策定と実施を推進



▲土地利用構想（景観地区区分図）（出典：第6次嬭恋村総合計画-後期基本計画-）

(2) その他計画における位置づけ

■ 嬬恋村デジタル田園都市構想総合戦略-第3期嬬恋村まち・ひと・しごと創生総合戦略-(令和6年3月)

基本理念として「嬬恋村に暮らし、関わる沢山の仲間と一緒に、将来にわたってこの村の豊かな自然を守り、踏み出す仲間を応援する風土と、多世代の活発な交流でにぎわいを創出し、嬬恋村らしく発展させていくことで、持続可能な地域を目指す」ことが掲げられています。

主な施策や取り組みに関わる位置づけとして、以下の内容があります。

- 嬬恋村の観光の核となる浅間山北麓ジオパークの推進を通じた観光人材の育成
- 住民及び観光客の交流の拠点作り、ジオパーク事業の総合案内、観光情報の発信、交流事業の実施
- 村内の豊かな自然、歴史、文化をはじめとした地域資源の掘り起こし及び磨き上げ
- 村内製品の普及、並びに販路拡大を図ることを目的としたイベント等への参加に対する補助

■ 嬬恋村景観計画(平成26年12月)

景観形成方策に関わる位置づけとして、以下の内容があります。

- キャベツ畑は嬬恋村特有の景観を形成しており、将来にわたって景観と調和のとれた農業基盤を維持
- 万座・鹿沢口駅周辺や国道144号沿いの商業拠点については、村の玄関口にふさわしい、にぎわい景観や統一感のある商業地景観を形成
- 別荘所有者の意向を尊重し資産価値の維持・向上とあわせて別荘地景観の保全
- 一級河川や国道、パノラマライン等の公共施設については、景観重要公共施設に指定し景観整備

■ 嬬恋村公共施設等総合管理計画(令和4年3月改定)

基本方針として「安全快適で環境にやさしい施設づくり、管理費用の最適化、公共施設等のあり方の検討」が位置づけられており、建築物系施設について、新耐震基準建築物の長寿命化を図りながら、延床面積を30%縮減することが目標に掲げられています。

主な施策や取り組みに関わる位置づけとして、以下の内容があります。

- 地域住民の意向も踏まえながらこれからの集会施設のあり方について検討し、集約化等による施設規模の縮減
- 村役場庁舎は築40年以上が経過しており、耐震化が必要なことから、建替えを基本方針とした建設計画を検討
- 村役場庁舎の建替えにあたっては、施設規模や機能、配置、複合化等を多面的に検討するとともに、ユニバーサルデザインの導入やプライバシー保護の観点等からセキュリティ機能の充実等、時代のニーズに合致した施設整備

03 村に対するニーズ

(1) 村民アンケート調査

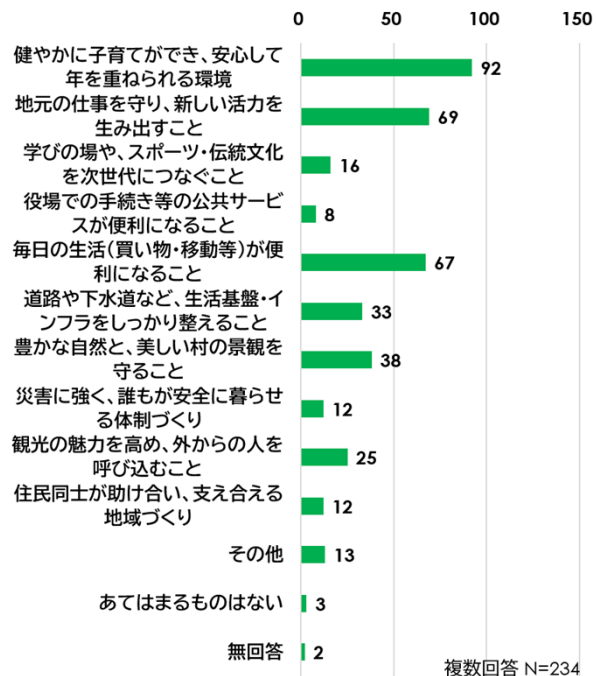
■調査概要

- ・ 調査期間：令和8年4月13日（月）～4月30日（木）
- ・ 調査対象：孺恋村公式LINEに登録されている村民・65歳以上の村民無作為抽出300名
- ・ 回答者数；合計234名（WEB回答者98名・調査票回答者136名）

■主な結果と概要

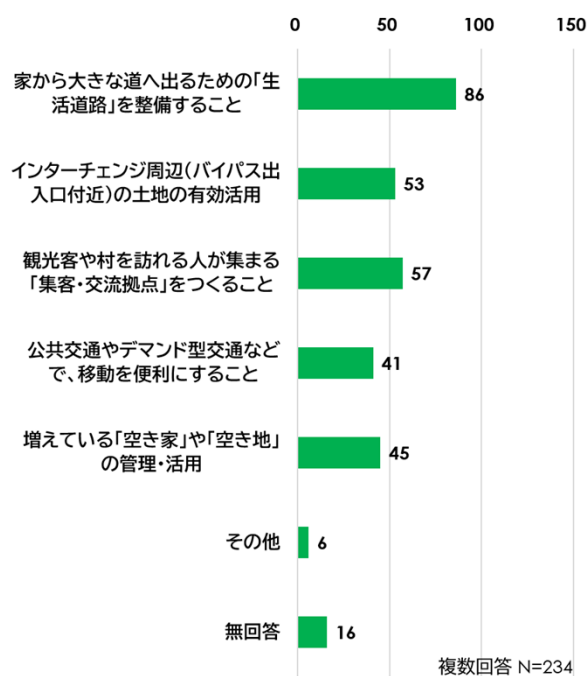
①村の暮らしで力を入れるべき・大切にすべきこと

子育てや安心して暮らせる環境を求める声が多く、次いで地元での仕事や生活利便性の確保を望む声が多くなっています。



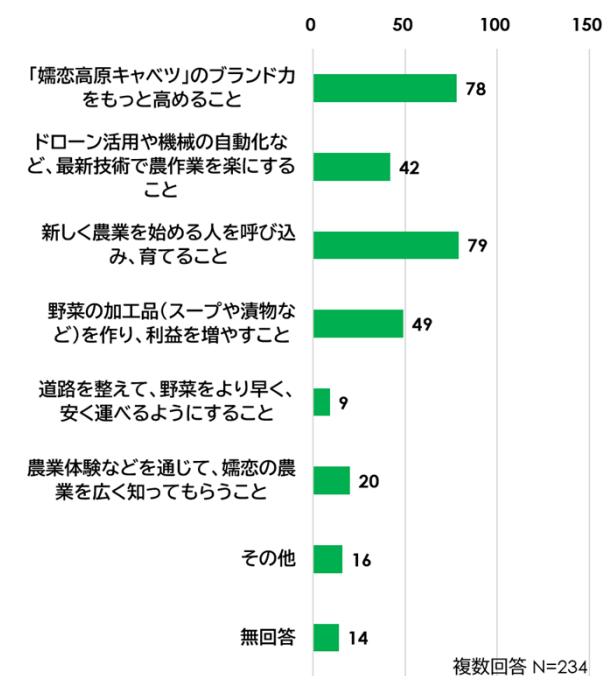
②上信自動車道の整備にあわせ優先すべき取り組み

生活道路の整備を求める声が多く、次いで集客・交流拠点の創出やインターチェンジ周辺の土地活用を望む声が多くなっています。



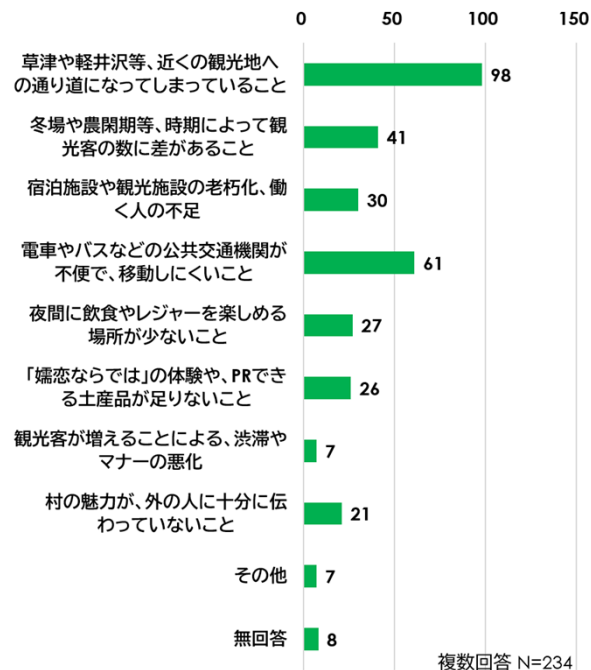
③村の農業を今後発展させるために必要なこと

新規就農者の確保・育成、孺恋高原キャベツのブランド力強化を求める声が多く、次いで加工品開発や最新技術活用を望む声が多くなっています。



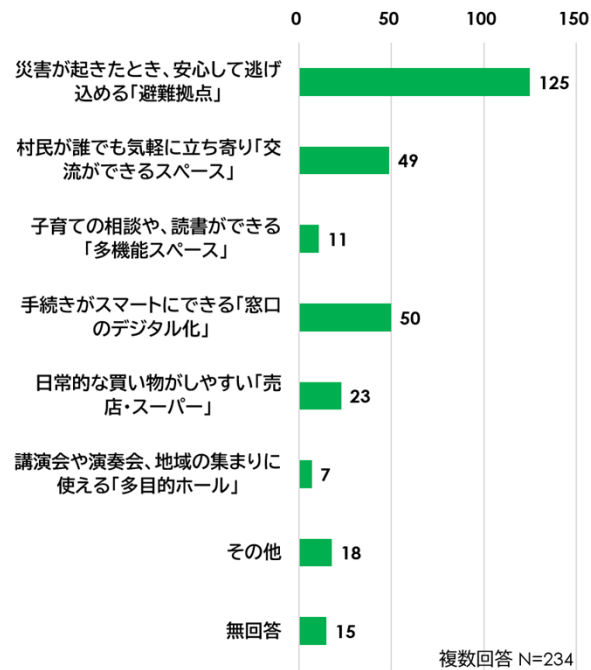
④村の観光で足りない・困ると思うこと

近隣観光地への通り道になっている点を挙げる声が最も多く、次いで公共交通機関の不便さや冬場・農閑期の集客に関する声が多くなっています。



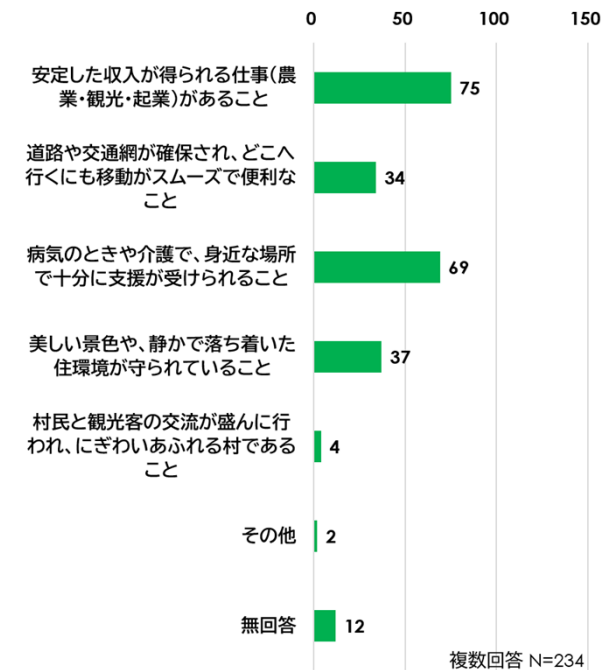
⑤新役場で行政手続き以外に期待する機能や役割

発災時の避難拠点としての期待が最も多く、次いで行政サービスの効率化や交流スペース創出に関わる声が多くなっています。



⑥ずっと本村に住み続けるために最も大切なこと

安定した収入が得られる仕事の確保が最も重視されており、身近な場所での医療・介護支援も同程度で重視されています。



(2) 観光客アンケート調査結果

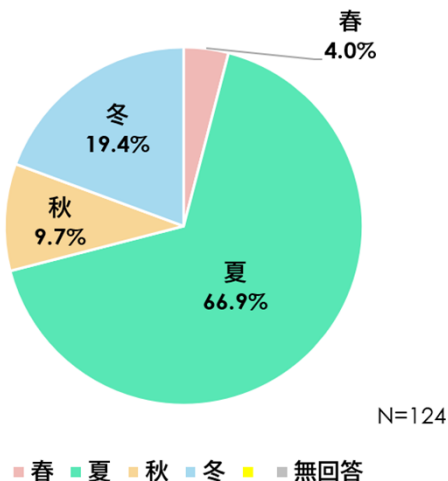
■調査概要

- ・ 調査期間：令和8年4月13日（月）～5月7日（木）
- ・ 調査対象：孺恋村公式LINEに登録されている村外にお住まいの方
- ・ 回答者数；合計124名（すべてWEB回答による）

■主な結果と概要

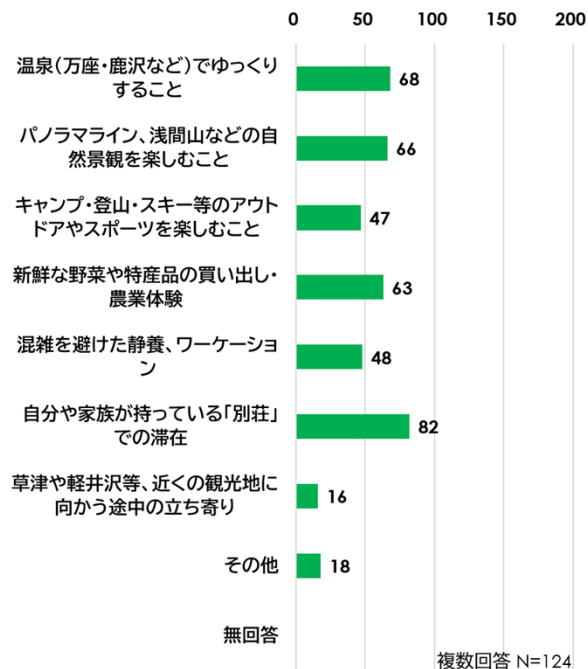
①特に訪問する季節

回答者の中で、訪問することが多い季節は「夏」が最も多く、次いで「冬」となり、避暑地滞在やウィンタースポーツでの需要が高いといえます。



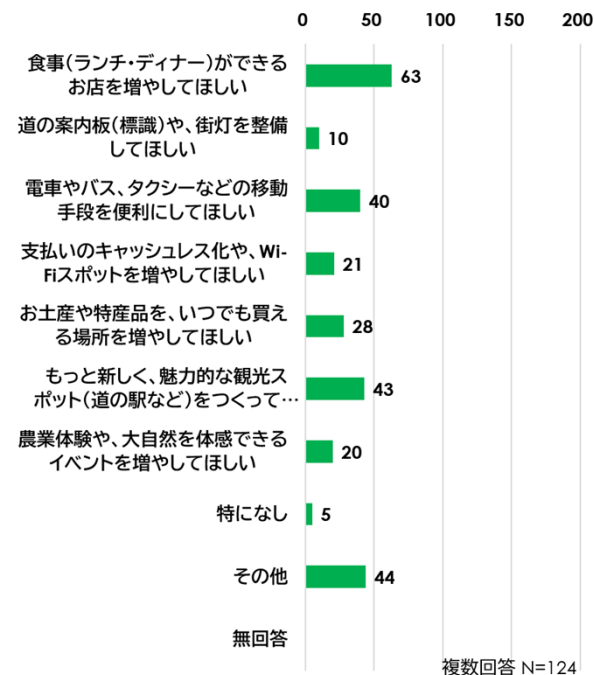
②村を訪れる(または訪れたい)主な目的

別荘での滞在や温泉・自然景観を楽しむことが主目的として上位にあり、特産品の買い出しや農業体験を挙げる声も比較的多くなっています。



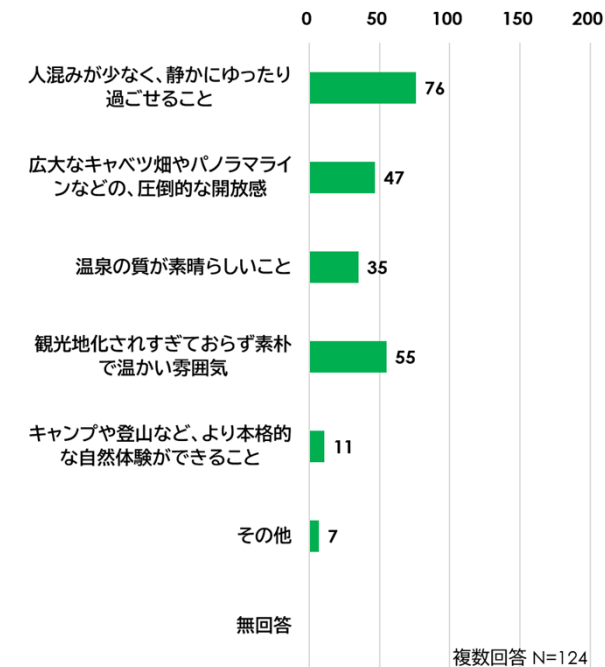
③村を訪れる際に望むこと・不便に感じること

滞在中の食の選択肢を充実させることが最も多く、次いで魅力的な観光スポットの創出や移動手段の利便性向上のニーズも多くなっています。



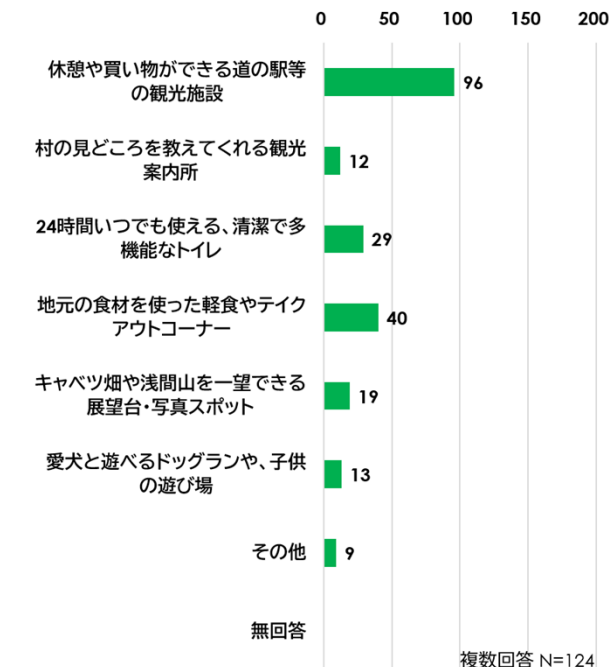
④近隣観光地と比べて感じる“癒恋ならではの”良さ

人混みの少なさや静けさを評価する声が最も多く、次いで、過度な開発を避けた温かい雰囲気に安心感を持つ意見も多くなっています。



⑤上信自動車道のIC付近に欲しい施設やサービス

休憩や買い物ができる道の駅等の観光施設への期待が最も多く、広域交通の利便性を活かした拠点整備が強く望まれています。



⑥村の農業に関連してやってみたい・興味のあること

食と農業を直結させたコンテンツへの期待が最も多く、遠方でも村の農業を支援できる仕組みや体験型アクティビティにも一定のニーズがみられます。



(3) 事業者の目線から見た孺恋村

■実施概要

本計画策定にあたって、事業者が捉える地域の実情や各分野の課題、将来に向けた意見・提案を把握し、計画に反映させるため、公民連携による事業の参画可能性等を確認する最初のステップとして、村内の事業者・団体にヒアリングを行いました。

ヒアリングでは、村の基幹産業である農業、地域活性化を担う観光・商業等の視点からさまざまな意見を伺い、課題やニーズを把握しました。

■ヒアリング内容

ご協力いただいた事業者に対して、以下の内容についてヒアリングを行いました。

- ・現状及び課題
- ・上信自動車道整備への期待
- ・ランドデザイン（将来土地利用構想など）へのご意見
- ・地域拠点形成に対するニーズ
- ・村内の事業者として担えそうな役割
- ・将来の孺恋村に期待する姿 等

■結果概要(事業者の目線から見た課題・ニーズ)

① 孺恋高原キャベツの生産基盤の維持

- ・村の大きな強みであるキャベツ生産を担う農家は、後継者の不足等から担い手が減少しており、今後はいかに生産基盤を維持していくかが課題との声が挙がっています。

③ 上信自動車道整備への期待

- ・キャベツの輸送効率化、時間短縮、生産者の負担軽減、村内への来訪者増加、観光資源へのアクセス性向上が期待されています。
- ・上信自動車道整備に伴い、物流がどのように変化していくかを把握し、より高い整備効果が期待できるインターチェンジや拠点の位置を検討していくことが望まれています。

② 観光振興の体制強化

- ・観光振興に対する人材等が不足しており、体制強化に向けて、行政との人材交流・育成を促進しながら、持続的に観光振興を図る体制づくりが必要との声が挙がっています。
- ・村の強みである観光と農業の連携を図り、農観一体で、さらなるPRや観光振興を図っていくことが重要との声が挙がっています。

④ 村の魅力を伝える観光・交流拠点の形成

- ・観光・交流拠点は、キャベツ、観光、雄大な自然・景色等の村の魅力を活かし、村に立ち寄る中継点として機能することが望まれています。
- ・村への来訪のきっかけとなり、そこから村内の観光エリア・温泉等にも巡ってもらえるような、人の滞留や村内の周遊及び経済的な効果につながっていくことが期待されています。

04 課題の整理

前章までに整理した村の現況特性や各種計画における位置づけ、及び村民・観光客等の意見やニーズを踏まえ、本計画における課題を、視点別に以下のように整理しました。

視点1 観光・交流

【主な現況・特性】

- ・ 村の観光入込客数(令和5年)はコロナ禍前の7割程度(約153万人)にとどまる。
- ・ 国道144号の交通量は6,000～10,000台/日と比較的多いものの、立ち寄り場所は限定的な状況である。
- ・ 上信自動車道の開通により、広域的な移動動線が変化し、村外からの訪問機会増加が想定される。

【村民・観光客の意見・ニーズ】

- ・ 周辺観光地への「通り道」になっている点に問題意識をもつ村民が多い。
- ・ 村の歴史や文化を学び、体験できる施設を整えることを重視する村民は少ない。
- ・ 立ち寄りたくなる「飲食店」や、休憩や買い物ができる「道の駅等の観光施設」を期待する観光客が多い。

【課題】

- ・ 「通り道」にとどまる状況を解消するため、上信自動車道インターチェンジ周辺において、飲食・地産地消・防災等の多機能を備えた「複合型交流拠点」の整備の検討が必要です。
- ・ 本村の歴史や特性を伝える文化財や地域資源があるものの、その価値が認識されていないため、顕在化を図りながら、観光・文化教育へ活用することが必要です。
- ・ 本村の静けさや大自然を生かした体験型観光の拡充等を図り、来訪機会の増加や滞在時間の延長を図ることが必要です。

視点2 生活・インフラ・公共機能

【主な現況・特性】

- ・ 令和32年には将来人口が約5,000人、高齢化率50.7%の推計となっており、超高齢化社会が確実に到来し、財政状況がさらに厳しくなると想定される。
- ・ 村役場の庁舎は築40年以上と老朽化が進み、耐震性・バリアフリーが確保されておらず、有事の際には行政機能の喪失が懸念される。一方、公共施設等総合管理計画では総延床面積の縮減目標が掲げられている。

【村民・観光客の意見・ニーズ】

- ・ 「医療・介護・子育て環境」のほか、雇用機会不足や地域活力の低下、買い物・移動の不便さに問題意識をもつ村民が多い。また、バイパス整備にあわせた生活道路整備を求める意見も多い。
- ・ 新庁舎では、行政機能以外に避難・交流機能や手続きの簡略化を期待する村民が多い一方、厳しい財政状況下における新規整備の抑制や、施設集約・既存ストックの活用を指摘する意見もある。
- ・ 村民の日常的な移動手段は自家用車依存が際立つ中、将来の免許返納を見据えたデマンド交通の利用意向や、村民・観光客とも「公共交通の移動手段の不便さ」を指摘する意見がある。

【課題】

- ・ 村役場の新庁舎整備にあたっては、行政機能のみならず「防災・交流・デジタル」拠点としての機能も担保する等、多機能化を図ることが必要です。また、整備にあたっては、上位計画での位置づけに基づき、既存施設との統合やダウンサイジングの検討が必要です。
- ・ 上信自動車道の整備にあわせた生活道路の整備を適切に進め、アクセス性や利便性を高めることが必要です。
- ・ 自家用車が運転できなくなる・手放す層の移動の足を支える、公共交通・二次交通のあり方を検討することが必要です。

視点3 基幹産業：農業

【主な現況・特性】

- ・ 本村の夏秋キャベツは、出荷量全国第1位(全国シェアが約60%)を誇り、夏場は豊富な出荷量になるものの、冬場は農閑期となり極めて強い季節変動に見舞われている。
- ・ 担い手(農家数・従業者数)は減少傾向にあるものの、耕地面積は維持されている。

【村民・観光客の意見・ニーズ】

- ・ 村の農業の発展には、「新規就農者の確保・育成」と「婦恋高原キャベツのブランド力の更なる強化」を重要視する村民が多い。また、「最新技術の活用による省力化」への関心もみられる。
- ・ “キャベツ一筋”による市場価格の変動リスクに問題意識をもつ村民もみられる。
- ・ 観光客目線では、食と農業を直結させたコンテンツへの期待のほか、産地直送のお取り寄せやオーナー制度、収穫体験等、村の農業を支援できる仕組みの関心もみられる。

【課題】

- ・ 農業と観光を直結させた持続可能な“農観連携モデル”のあり方を検討するとともに、農業の供給サイクルを考慮しながら通年の活性化を視野に入れた取り組みの検討が必要です。
- ・ 収穫量日本一を誇る「婦恋高原キャベツ」の更なるブランド力向上と、価格変動・市場変動に強い供給・加工体制の構築が必要です。
- ・ ドローンや自動化機械等の活用による、労働負担の軽減と生産性の向上を図ることが必要です。

視点4 景観・コミュニティ構築

【主な現況・特性】

- ・ 村域の約75%が森林であり、国立公園やパノラマライン等の傑出した自然景観を保有する。
- ・ 約3,500世帯の定住世帯を上回る、膨大な別荘(約9,000戸)が存在する。

【村民・観光客の意見・ニーズ】

- ・ 村民・観光客とも、「豊かな自然、人混みの少なさ、静けさ・素朴さ」を本村ならではの良さと認識している。
- ・ 観光客目線では、メガソーラーや荒廃した空き家・空き別荘等による景観悪化への不満もみられる。
- ・ 一方、村民や事業者の目線では、急増する民泊施設を巡るトラブルに危機感を持つ意見もみられる。

【課題】

- ・ 本村らしさを象徴する美しい景観や風景を守るための、運用強化やルール設定の検討が必要です。
- ・ 急速に増加する空き家活用の民泊事業に対し、適切な対策・管理のあり方の検討が必要です。
- ・ 別荘住民や移住者を、地域住民とともに“地域主体”と捉え、地域貢献やボランティア意欲が十分に確認できれば、関係人口(サポーター)として迎え入れる仕組みの検討が必要です。

3 章

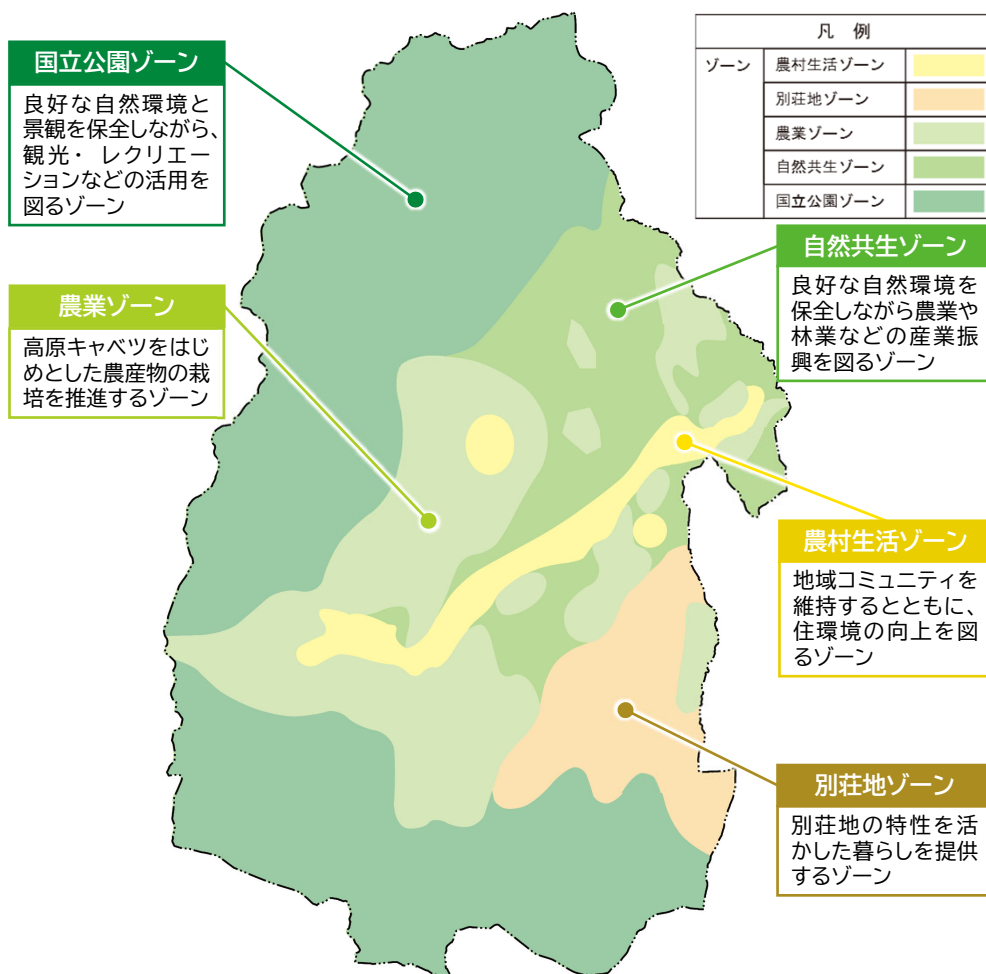
おおむね20年後の村の姿

01 将来土地利用構想図

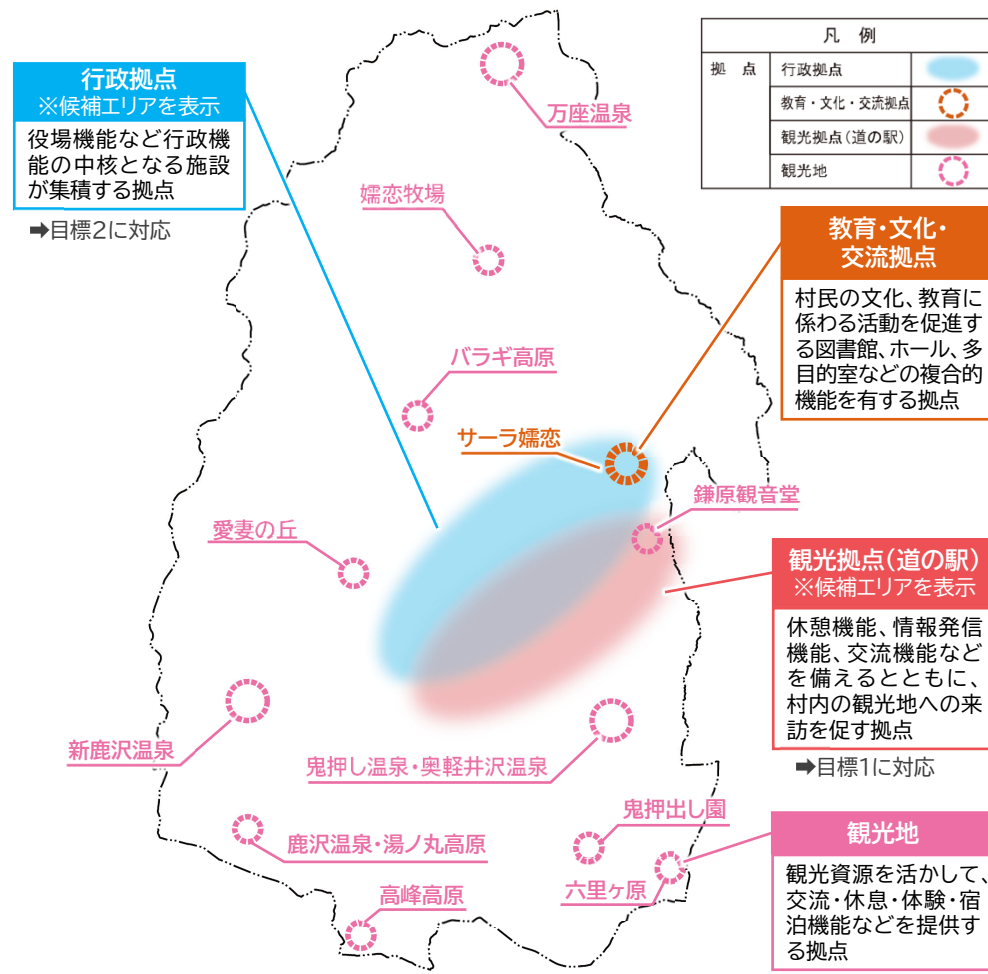
これまでに本村で検討してきた経緯や、景観形成地区区分図（第6次総合計画）を基に、ゾーン区分、拠点、軸のあり方を整理し、これらを重ね合わせることで、将来の土地利用のあり方を示す「将来土地利用構想図」をまとめました。ゾーン区分・拠点・軸の考え方は下記の通りです。

- ▶ **ゾーン区分の整理方法** : 景観形成地区区分及び土地利用（農業地域、国立公園区域 など）を基に、以下の5ゾーンを設定
- ▶ **拠点の整理方法** : 景観形成地区区分図及び村内の主な観光地を基に、以下の4拠点を設定
- ▶ **軸の設定の整理方法** : 村内の道路網及び上信自動車道のルートを基に、以下の4軸を設定

ゾーン区分

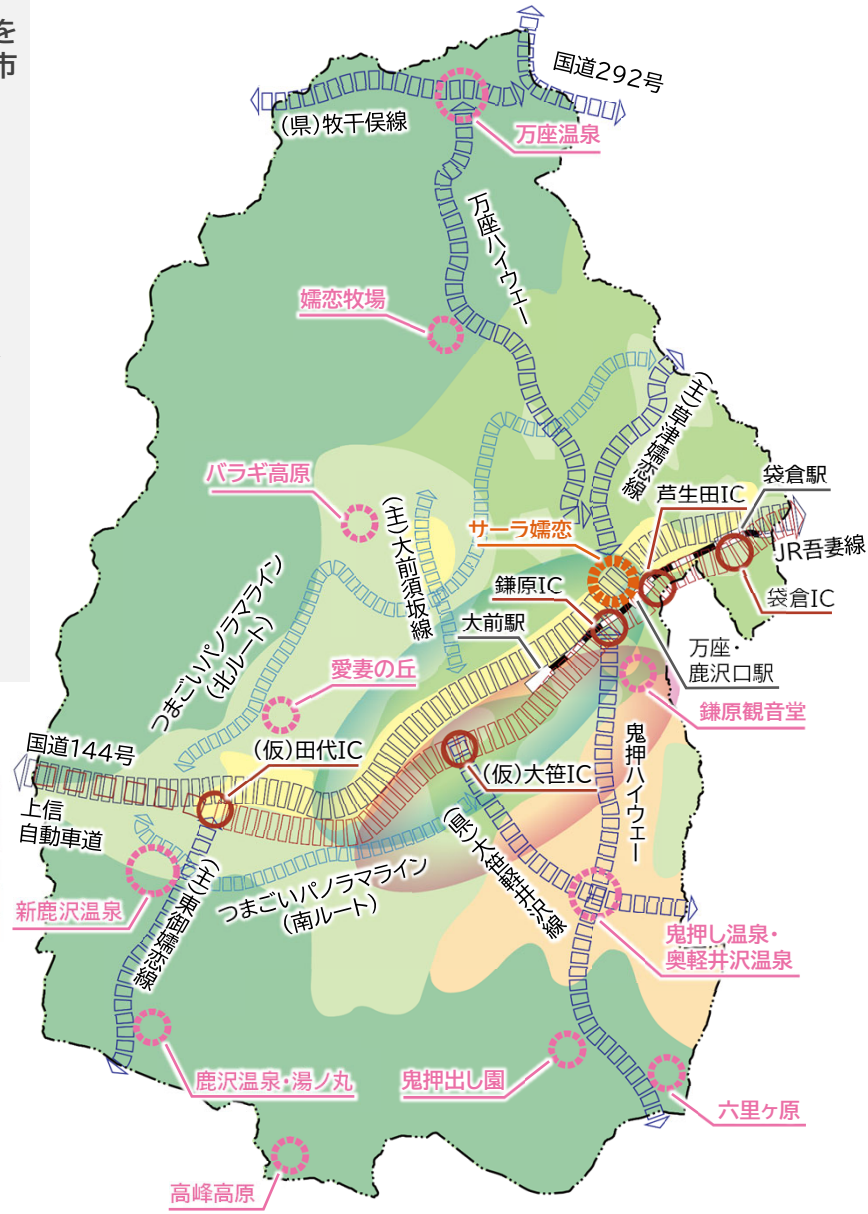
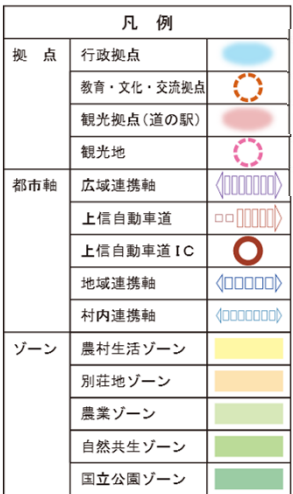
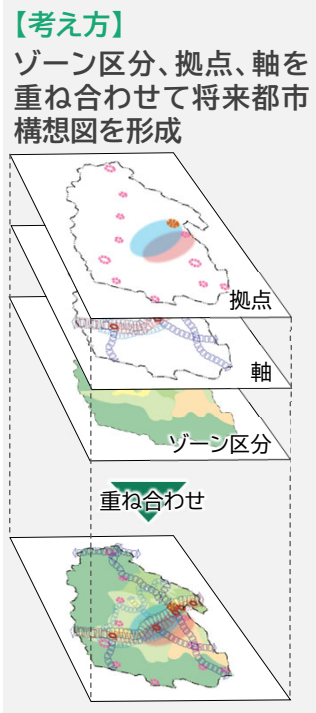


拠点





将来土地利用構想図



大地と創り 未来へつなぐ 美しい村

孺恋村の自然・産業・文化は、豊かな大地の恵みを活かして、先人たちが培ってきました。
人口減少・少子高齢化等の課題がある中、先人から受け継いだ美しい自然環境や景観を守り、
産業や文化を進化させ、村民が誇りをもって「美しい村」と呼び続ける未来を目指します。



02 将来ビジョンを実現するための目標

本村の課題を解消し、本計画の「将来ビジョン」を実現するために、以下の4つの目標を設定します。

目標1 「通り道」から「滞在・周遊拠点」への転換

近隣観光地への通過交通を誘引し、村内での消費拡大と滞在時間の延長を促すため、滞在・周遊の仕組みを構築します。

- 上信自動車道IC周辺への複合型交流拠点の整備：来訪者の動線を考慮しながら、飲食・地産地消・防災等の機能を備えた複合型交流拠点(道の駅等)を戦略的に創出します。
- 「孀恋ならでは」の体験型観光の拡充：多彩な自然環境や貴重な文化財を顕在化させ、観光・文化教育を促進する拠点を形成します。「静けさ」を価値化したスロートーリズムや豊かな自然環境を体感できるトレイルの構築により、体験コンテンツを拡充します。

目標2 行政・公共機能のコンパクト化とサービスの多機能化

人口減少・少子高齢化に伴う厳しい財政状況を見据え、公共施設の適正化を図りつつ、安心・安全な生活基盤を構築します。

- 新庁舎を核とした「防災・交流・デジタル」拠点の整備：村役場庁舎の再整備において、防災・避難機能を優先的に担保し、デジタル化による利便性強化や、多世代交流が図れる「村の多機能コミュニティ拠点化」を推進します。既存ストックの活用による再整備や機能統合も視野に入れ、整備のあり方を検討します。
- 生活道路の適切な整備：新たに整備される上信自動車道へのアクセス性・利便性が高い生活道路のあり方を検討します。
- 持続可能な地域公共交通ネットワークのあり方検討：自家用車依存の現状を踏まえ、将来の運転不安を解消し、日常の移動を支える地域公共交通・二次交通のあり方を検討します。

目標3 「稼ぐ農業・農観連携」への進化

“孀恋ブランド”を維持しつつ、最新技術導入による省力化と、季節変動に対応するための持続可能な産業活性化モデルを構築します。

- 持続可能な農観連携モデルの構築：地産地消の飲食店や体験型ツーリズムの展開等、農業の現場と観光を結び付けた高付加価値な体験を創出します。営農環境に配慮した環境保全型農業に取り組みながら、農業側の供給体制に配慮しつつ、冬季も含めた通年で地域経済活性化を目指します。また、収穫量日本一を誇る「孀恋高原キャベツ」の更なるブランド力向上、及びその他の魅力的な特産品のPR方策のあり方を検討します。
- スマート農業技術の実装による生産性向上の推進：後継者・労働力不足に対応するため、自動化機械や高冷地野菜に特化した生産管理システム、ドローンの活用を支援し、労働負担の軽減と生産の効率化・低コスト化を図ります。

目標4 景観資源の保全と脅威となる要素の解消

美しい自然環境や静けさ・素朴さを脅かす要素を解消しつつ、村内の別荘住民や移住者を“地域主体”として巻き込む協働の仕組みを構築します。

- 「景観形成地区区分」の運用強化：広告物や建物色彩の規制に加え、メガソーラーの設置における留意点の整理など、孀恋らしい風景を守るためのルール・ガイドラインのあり方を検討・運用します。
- 空き家・廃別荘等の戦略的活用と運用ルールの導入：老朽化した空き別荘や廃墟等の撤去・活用を図り、移住体験や二地域居住の受け皿として再生します。また、一過性の利用客による地域トラブルを回避するためのルール策定や、別荘住民・移住者・地域住民が一体となった地域貢献を図るための仕組みを検討・構築します。



愛妻の丘

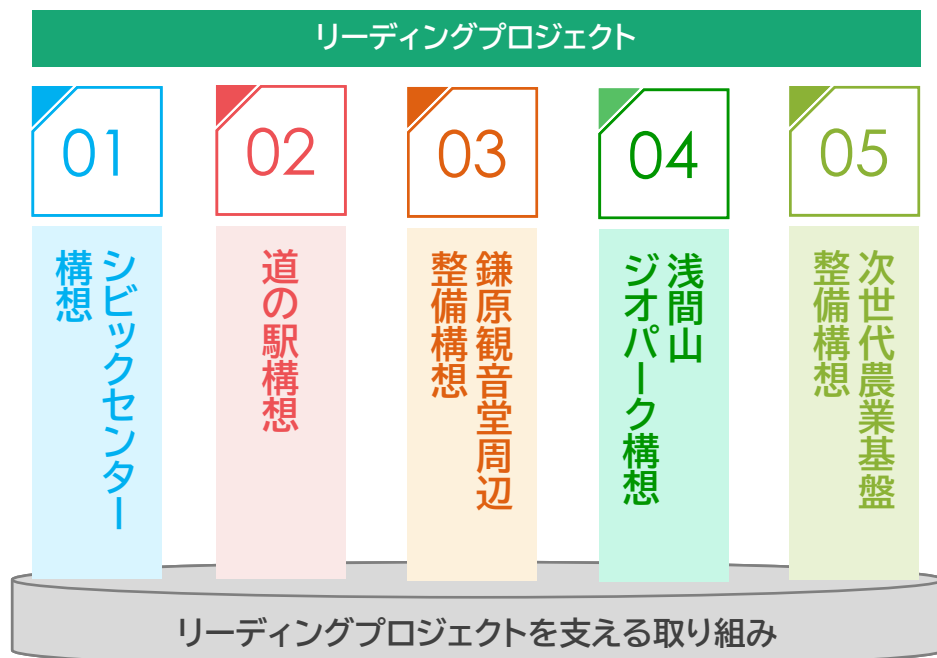
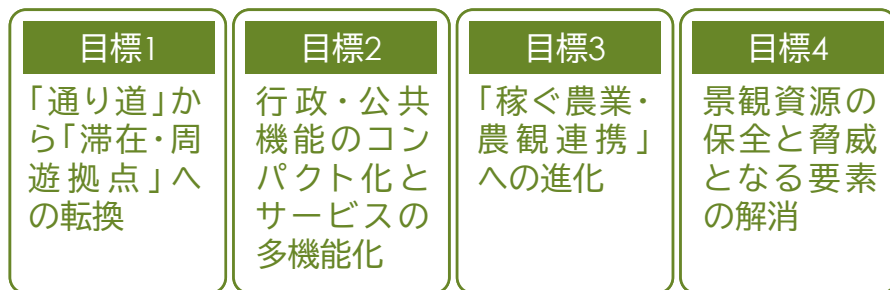
「愛妻の丘」は、キャベツ畑や浅間山、田代湖を一望できるビュースポットであり、天体鑑賞の場所としても人気です。毎年9月には、男たちが真剣に愛を叫ぶイベントが開催される「愛妻家の聖地」としても有名です。

4 章

リーディングプロジェクト

リーディングプロジェクト一覧

3章で位置づけた4つの目標を踏まえ、本計画を牽引する「リーディングプロジェクト」として以下の5つの構想を位置づけるとともに、「リーディングプロジェクトを支える取り組み」についても整理しました。これらは独立させて取り組むのではなく、相乗効果を上げられるように推進していきます。



※次世代農業基盤整備構想は農業ゾーンを中心に村内全域を対象



▲各リーディングプロジェクトの想定エリア図

01 シビックセンター構想

プロジェクト概要

上信自動車道周辺において、老朽化した村役場庁舎の建て替え、または既存建物を活用した整備を検討します。
実施にあたっては、防災機能、窓口のデジタル化、交流機能など村民ニーズを踏まえ、導入機能の検討を実施するとともに、吾妻消防本部婦恋分署や国、群馬県の合同庁舎など既存施設との複合化や機能統合、民間活力導入の可能性も含め整備のあり方を検討します。

【現状・課題】・現庁舎の現状は下記の通りです。

①老朽化の進行（築40年以上） ②耐震基準に不適合 ③バリアフリー化が未実施

・村民アンケートより役場庁舎で行政手続き以外に期待する機能や役割として、防災拠点機能、窓口のデジタル化、交流機能が求められています。

【整備エリア】・上信自動車道周辺（具体的な整備エリアは今後検討予定）

【導入施設】・婦恋村役場庁舎 ・吾妻消防本部婦恋分署 ・合同庁舎（国、県） など

【ターゲット】・村民



02 道の駅構想

プロジェクト概要

上信自動車道周辺において、単なる休憩所にとどまらず、地産地消のレストランや農産物直売所、発災時の広域救難拠点、公園などを兼ね備えた複合拠点型道の駅について、民間活力導入の可能性も含め整備のあり方を検討します。

また、開業後は本施設を起点とした農業ツーリズムの展開や村内観光地への周遊を促進することで、村内での消費拡大や滞在時間の延長を図ります。また、村民の利便性向上や地域コミュニティの活性化にも資する施設を目指します。

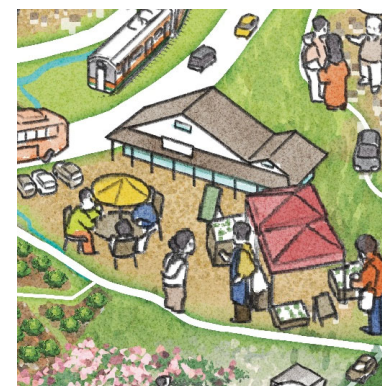
【現状・課題】・村内の上信自動車道沿道において休憩機能を提供する施設は、鎌原観音堂駐車場のみであるため、休憩機能の充実が求められています。

・村民・観光客アンケートより上信自動車道の整備に合わせた集客・交流拠点が求められています。

【整備エリア】・上信自動車道周辺（具体的な整備エリアは今後検討予定）

【導入施設】・道の駅 ・公園、広場 など

【ターゲット】・観光客 ・村民 ・別荘住民



03 鎌原観音堂周辺整備構想

プロジェクト概要

天明3年浅間山噴火の被害の痕跡及び復興の歩みを体感できる鎌原観音堂周辺の貴重な地域資源を保存するとともに、観光・文化教育へ活用するため、観音堂石段及び延命寺展示施設を整備します。

また、実施にあたっては、鎌原地区における当該施設の位置づけに十分留意しながら、孺恋郷土資料館、孺恋村地域交流センター、農産物直売所など隣接する施設との連携を見据えた上で導入機能などを検討します。

【現状・課題】・本村の観光入込客数（令和5年）は、コロナ禍前の約7割程度の回復であり、更なる観光入込客増加に向けた施策の実行が必要です。

・鎌原観音堂石段や延命寺は、天明3年浅間山噴火の被害の痕跡及び復興の歩みを感じられる地域資源であるものの、観光、文化教育などへの活用が十分なされていないといえます。

【整備エリア】・鎌原観音堂周辺

【導入施設】・観音堂石段展示施設 ・延命寺展示施設 など

【ターゲット】・観光客 ・別荘住民



04 浅間山ジオパーク構想

プロジェクト概要

日本を代表する活火山の浅間山を観光資源として一層活用しつつ、ユネスコ世界ジオパーク認定を目指すため、近隣自治体とも広域連携を図りながら、トレイル整備等のあり方を検討しつつ、シェルター、防災無線、踏圧対策としてのロープ柵などの火山防災・安全対策を行います。

また、ハード整備だけではなく関係団体と連携し、ガイド付きツアーや教育旅行のプログラムを造成するとともに、ガイド、コーディネーターの育成を図ることで、ジオツーリズム受け入れ体制整備にも取り組みます。

【現状・課題】・本村の観光入込客数（令和5年）は、コロナ禍前の約7割程度の回復であり、更なる観光入込客増加に向けた施策の実行が必要です。

・2016年に吾妻川より右岸の地域は、日本ジオパークに認定されました。今後は、ジオパークのエリア拡大やユネスコ世界ジオパークへの認定に向けた環境整備や継続的な人材育成が必要です。

【整備エリア】・浅間山周辺

【導入施設】・登山道 など

【ターゲット】・観光客 ・別荘住民



05 次世代農業基盤整備構想

プロジェクト概要

地域の産業基盤である農業を次世代に継承するため、先端技術を活用した作業の効率化と、データに基づく精密営農（農業 DX）の導入支援を行います。

また、高原キャベツの出荷・生産体制を主軸としつつ、収益性の高い作物を含め多品目野菜の栽培・販売方法を官民が連携して構築することで、強固で安定した農業基盤の確立を目指します。

- 【現状・課題】・村内で生産される農産品の大半はキャベツのため、市場価格の変動リスクが懸念されています。
 - ・後継者不足等により村内の農業従事者の減少が懸念されています。
- 【整備エリア】・農業エリアを中心とした村内全域
- 【主な取組】・効率化・低コスト化を目的とするスマート農業技術の導入支援
 - ・スマート農業技術のデータを活用した生産管理システムの導入支援
 - ・キャベツ出荷・生産体制を主軸とした収益性の高い作物、多品目野菜の栽培、販売方法の構築 など



リーディングプロジェクトを支える取り組み

- 持続可能な地域公共交通ネットワークのあり方検討：将来の運転不安を解消するため、日常の移動をサポートする地域公共交通や二次交通のあり方を検討します。第6次総合計画で位置づけられた基本施策「道路及び公共交通の整備・充実」との連携に留意しながら、村内における移動の足の確保を図ります。
- 景観形成におけるルールのあるあり方検討：豊かな自然環境を阻害しないまちの形成、広告物や建物色彩の規制、メガソーラー設置における留意点の整理など、郷土の風景を守るためのルールのあるあり方を検討・運用します。
- 別荘住民・移住者・地域住民が一体となった地域貢献のためのルールづくり：地域貢献に向けた取り組みを促進する仕組みを検討します。
- DXの推進・活用：さまざまな分野・取り組みの効果的な促進・効率化を図るため、DX技術の援用及び推進を図ります。



浅間高原シャクナゲ園

浅間高原シャクナゲ園は、“高嶺の花”の語源となったシャクナゲを楽しめる名所です。毎年5月～6月にかけて15万本のシャクナゲの花々で埋め尽くされた園内と、そこから望む浅間高原の景色は圧巻です。

5 章

グランドデザインの実現体制と ロードマップ

01 実現体制のあり方

■体制の基本的な考え方

本村の行政リソース（人、技術、予算）に限られる状況では、持続的な取り組みとしていくために、民間事業者のアイデアやノウハウを取り入れ、公民連携により取り組むことが必要となっています。

婦恋村の基幹産業である農業、観光と行政が力を合わせて連携を図りながら、各プロジェクトや事業を推進していくことが重要です。

将来的な地域拠点形成にあたって、例えば観光・交流拠点では、村内の事業者で連携する体制を構築し、観光案内所、農産物直売所、特産品を活かした飲食・物販、キャベツ収穫体験、畑見学等を展開していくことが考えられます。

このとき、村の観光が中心となって拠点の管理・運営を担い、地元農家への働きかけ、農観連携によるPR、商店の出店、イベントの展開等により、村内事業者が協力・連携しながら事業の推進を図っていくことが期待されます。

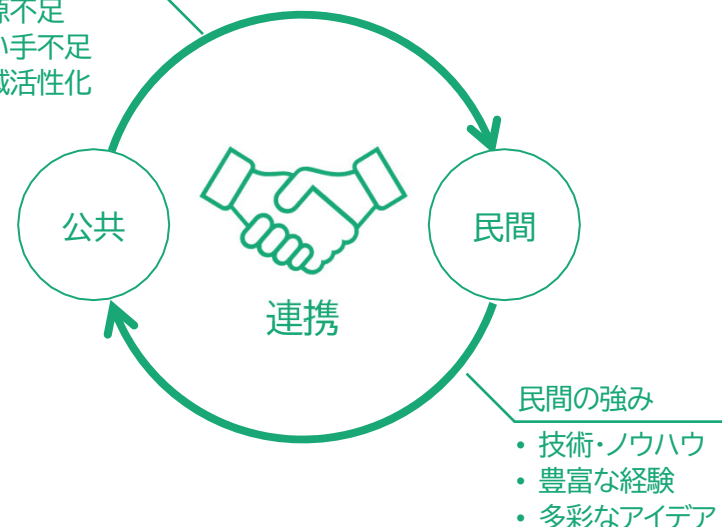
■今後の検討の進め方

本計画の段階では、構想検討の位置づけで村内事業者・団体にヒアリングを行い、課題やニーズ、アイデア等を把握しました。

今後は、公民連携の体制のあり方を一層具体化していくため、事業発案段階、事業化検討段階の検討へとステップを踏んでいくことが想定されます。

行政の課題

- ・ 財源不足
- ・ 担い手不足
- ・ 地域活性化



▲公民連携のあり方

STEP1 構想検討

- 現況、課題、地域ニーズ、提供可能なノウハウの把握

STEP2 事業発案

- 対象エリアの現況やニーズをもとに事業への関心、アイデア・ノウハウの把握
- 事業内容や参画形態、実現に向けて想定されるリスク等の把握

STEP3 事業化検討

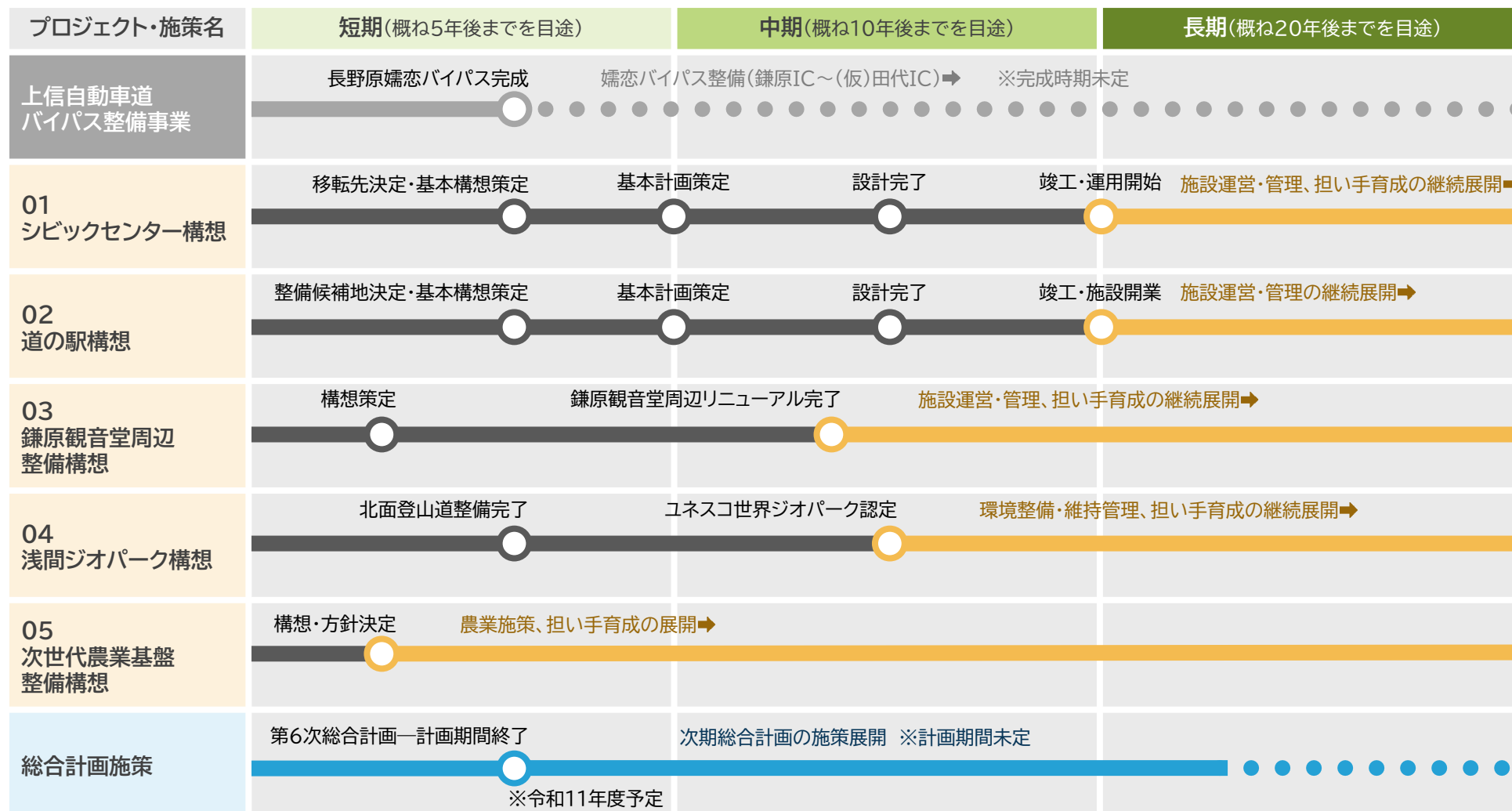
- 整備内容、参画要件、想定リスク、実現性等に関する意見の把握

▲検討の進め方

02 リーディングプロジェクトの実現に向けたロードマップ

本計画で位置づけた5つのリーディングプロジェクトは、上信自動車道のバイパス整備や総合計画の計画期間を念頭に置きながら、短期・中期・長期の3つの時間軸を意識して行動計画を設定し、進捗を図っていきます。

なお、以下の内容は現段階での想定であり、各種事業の進捗状況や関係機関との調整状況、社会情勢等を考慮しながら、適宜見直しを図ります。



おわりに

本村では、平成22年度に最初の「グランドデザイン計画」を検討しました。その後は、庁内での検討状況にあわせて精査を続けてきましたが、このたび、本村民及び全国に対し提示できる計画書としてようやく取りまとめることができました。

本計画は、総合計画との役割分担を意識しながら、特に「村民の暮らしの充実」「村をつなぎ守るインフラ整備の促進」「村への来訪機会の増加に向けた観光促進」といった“攻め・将来”の要素に重きを置き、取りまとめました。本計画で取り組みを位置づけて完了するのではなく、今後、さまざまなアプローチを以ってリーディングプロジェクトを展開していくことが重要です。

「おおむね20年後の村の姿」を描いて終わるのではなく、
本計画の策定を起点として、関係者と協働しながら、さまざまな取り組みを推進していきます。

嬭恋村グランドデザイン計画

令和8年9月発行

嬭恋村役場 未来創造課

〒377-1692 群馬県吾妻郡嬭恋村大字大前110番地

TEL: 0279-96-1257